

## 2018 年度学校自己評価に対する学校関係者評価

### 1 会議日時及び評価者

日 時：① 2019 年 4 月 20 日（土）11：30～12：50 ② 5 月 25 日（土）15：30～16：30

評価者：① くすのき会（中高一貫部保護者会）役員 2 名 ② 2018・2019 年度生徒会役員 2 名

③ 同窓会会長 1 名（メールにて評価）

総計 5 名

### 2 評価内容

【概要】全体の評価内容はほぼ適当であると考えます。

【評価項目】（評価について学校からの補足等は◎、評価者の意見は○とする）

1) 生徒が主体的に学ぶことができる授業への取り組みをより充実させる。生徒の自己実現に向けた支援体制をより強力に組織化する。

○本校では、生徒が主体的に取り組まざるを得ない状況がかなりできているのではないかと思います。とはいうものの生徒間で取り組み方に差が出ているのではないかと。積極的に発信力のある生徒は色々なことに挑戦しているが、そうでない生徒もいる。全員が同じことをする必要はないが、すべての生徒が何らかの形で自己実現できるようになってほしい。

◎それは学校側でも考えていることである。本校では創立以来「探究」に取り組んできた。「探究」は現在教育の主流になってきているが、そんな今だからこそ、これまでの活動を検証し、教育の質を上げようと教務や進路が中心になって考え、動き始めている。

○「やらされている感」の中では主体的な学びはない。しかし、やり方を教える、モデルを示すことも一つの方法であると思う。一度は型にはまってみる、そこから型にはまらなくても良いということを見出し、自分なりのやり方を見つけていくということもあるのではないかと。守破離というか。生徒が殻を破る方法になると思う。

○社会人は P D C A サイクルで行動することが推奨されるが、実際にできる人が沢山いるわけではない。それを学生時代から覚えられるのは良い。1 日として同じ日はないということに早い段階で気づける生徒が伸びていくのではないかと。人との関わりを沢山持つと良い。勉強だけでなく、部活動にも積極的に取り組んでほしいし、学校の外にも色々な世界がある。ダラダラするのは勿体ない。色々なことにチャレンジする生徒が最終的には豊かな人生を送れるのだと思う。全力で駆け抜けてほしい。

○在校生として感じていることは、入学したころに比べて学年が上がるに従って発表する機会が増えているということだ。討論をする授業も多いので、他の学校と比べて主体的な学びは身につけていると思う。

○タブレットの導入により、コンクール等の紹介が円滑になり、チャレンジしやすくなった。

○スタディサプリ English は家でやるべきものだと思う。授業で取り入れるとキツキツになってしまう。導入により成績は上がったが、ALT と話すままの英語の授業が減るのは不安である。

○生徒の自己実現に向けた支援体制は、まだ先生によってばらつきがあると思う。将来像が明確に描けない人に対してとても丁寧に指導してくれる先生もいるが、自分から相談に行かないとダメという先生もいる。

2) 探究テーマ・フィールドワークのより効果的な実践を研修し計画する。

○探究テーマが学年ごとに切れ、単発になってしまっている傾向も一部見受けられる。「探究」は自分の興味のある方向を最初に認知させるきっかけとなる。アニメから入っても良い。現実にガンダム世代でガンダムを実現させるために頑張っている人もいる。一生探究できるものを見つけてほしい。

○近年は地域の子供社会が崩壊し、集団で何かをする機会が少ない。動画やゲームに触れている時間が長く、楽しみ方が受け身になっている。特に中学受験をする子供は低学年から塾に通い、多感な時期に無邪気に遊ぶ時期が短くなっているのではないかと。中には自分の感情をうまくつかみきれず、表現できない子供もいる。そういう状況があることを前提に教育を考える必要があるかもしれない。

○探究をやってきて、テーマの選び方が難しいと思う。単発に終わりがちである。下級生は、5 年間通して

探究できるものを探すよう指導を受けているようである。

◎探究が学年ごとに切れる傾向にあることは探究テーマ室でも問題にしている。テーマの選び方が難しいのは確かである。広がるテーマを選べる生徒とそうでない生徒とがいる。中には中学時代に選んだテーマが一生の研究材料となり、職業となっている卒業生もいるが、生徒本人がその気にならないと難しい。大人の視点と子供の視点は違う。教員のファシリテーターとしての役割が大きい。プレゼンテーション能力の差もあるが、これは iPad の導入で、変わってくることも期待できる。

3) 生徒が互いの人間性を尊重し適切に対応できる人権意識を養う。(生徒の自主性を育成する。)

○率先して実行委員をやるような生徒はコミュニケーション能力が高いだろうが、SNS の普及で、一般には会話が減っているのではないかと。SNS では単語で会話する。人とコミュニケーションを取らないと想像力がなくなり、感情も希薄になり、うまく出せなくなる。相手を思いやる心も発動しない。

○人間性を尊重するというのは家庭教育の問題であると思う。自分がやられていやなことをするな、と言ってもわからない子供もいるというのが、それは幼児の遊びの中でのスキンシップが減り、核家族化が進み、この世の中には多様な人々がいるということが実感できていないからではないか。低学年のうちは多様性を理解させる指導していかなければならないだろう。

○世の中では大人のモラルも低下し、クレーム社会になりつつある。くすのき会では保護者に呼びかけをする。生徒には周囲を見て状況の判断ができる、自分の頭で考えて行動できる大人に育ってほしい。

○生徒指導には事前指導(予防)と事後指導があると思うが、これまで過ごしてきて、低学年のうちは人間性を尊重する事前指導が必要であると思う。行事を介してアプローチすると良いのではないかと。

◎学校では哲学対話を取り入れている。即効性はないが、自ら考えて言葉を発する状況を作っている。全ての教員の指導力を高め、哲学対話の場だけではなく、様々な場面で力をつける指導を行っていきたい。

4) 災害時に備え危険回避の行動計画立案・訓練を実施する。

◎災害時に備えてのマニュアルはあり、訓練もしている。東日本大震災の時は、どうやって生徒を家に戻すかを細かく考えて対応した。

○東日本大震災から8年経った。常に災害は起こりうるという前提でシミュレーションをする必要がある。災害時の取り決めは、各ご家庭でも考えておいていただきたい。

○避難訓練の際、現在は、授業を受けている場所から逃げる訓練をしているが、日常的にいる様々な場所から逃げるルートも頭の中で良いのでシミュレーションしておく必要があると思う。